

公正世界信念がうつ病患者への援助行動意図に及ぼす影響 —「従来型うつ」と「新型うつ」との比較を通して—

芝 啓 太

近年、自責的・自罰的といった特徴をもつ従来型のうつに対して、他責的・他罰的な傾向を示す「新型うつ」の存在が指摘されており、一般企業において問題視されている。「新型うつ」とされる人は疾患に対する否定的な印象のために上司や同僚からの援助を受けにくく、またしばしばパッシングの対象とされることが指摘されている。しかし、「新型うつ」に対する非難や援助のメカニズムについて詳細に検討した研究は乏しい。そこで本研究では、「新型うつ」に対する非難および援助のメカニズムを明らかにすることを目的として、従来型うつおよび新型うつの架空事例を用いて、ある出来事（特に負の結果）が起こった原因を過去の行い（負の投入）によるものと信じる傾向（内在的公正世界信念）と、不公正によって受けた損失が将来的に埋め合わされると信じる傾向（究極的公正世界信念）の2種類の公正世界信念が、うつ病患者への援助行動意図に与える影響を検討した。信念が強い人は、援助を必要とする他者が不当な結果の犠牲になっていると評価すれば援助し、当然の報いであると評価すれば援助に値しないと判断すると考えられた。そのため、従来型うつにおいて信念は非難と負に関連し援助と正に関連する一方で、新型うつにおいて信念は非難と正に関連し援助と負に関連することが予想された。

調査対象者は、一般社員265名（平均年齢38.06（ $SD=9.42$ ）歳）であった。分散分析の結果から、新型うつが従来型うつに比べて否定的態度な態度を向けられやすく、援助されにくいことが示された。また、パス解析の結果から、新型うつにおいてのみ内在的公正世界信念から人物に対する直接的な非難へ正のパスが見られ、援助行動意図を弱めるプロセスが示された。公正世界信念は両事例において概ね援助行動意図と正の関連を示していたが、新型うつでのみ内在的公正世界信念が高いほど人物の行動を非難するような態度も助長され、結果として新型うつに対する援助行動意図は従来型うつと比べて相対的に弱められることが示唆された。本研究から、公正世界信念の個人差がうつ病患者への否定的態度および援助行動意図に影響することが明らかになり、従来型うつと比較して「新型うつ」がより援助されにくいメカニズムの一端を示すことができたといえる。また、公正世界信念の2種類の下位概念がうつ病患者への援助において機能的差異を有することも明らかになった。本研究の知見は、人々のもつ素朴信念がうつ病患者への援助を促進する一方で、非難を助長する側面も有することを示した。うつ病の知識を啓発するだけでなく、人一般に備わる素朴信念のもつ影響を啓発していくことで、うつ病患者への援助においてより普遍的に役立つ視座を提供できるようになると考えられる。